

サカハチチョウ

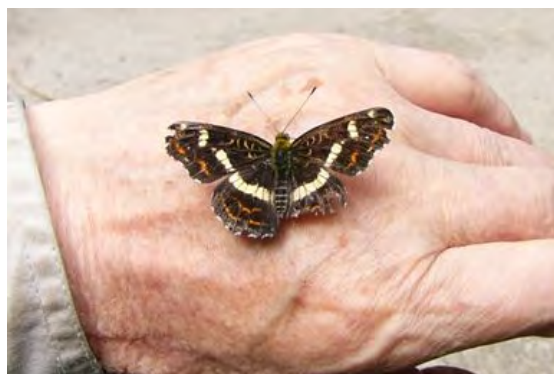
2011年8月10日の有明第二の作業は参加者6人で刈払機を4台使った作業道の刈払いが主な仕事でした。笹地に植えたヤチダモやケヤマハンノキ、自生したシラカバなど順調に育ち、笹丈をはるかに超える高さにまで成長していましたが、残念無念!!! 平成17年に記念植樹したエゾヤマザクラが前年秋の異常降雪により幹折れしていました。折れた先はまだ葉も生きていましたので主幹を起こしてみましたが、表皮が断裂してしまい復活の見込みがないと判断しました。それでも下枝が見込みありそうなので引き起こして幹にしぼりつけ復活を願うことにしました。



他にもシラカバの太い幹折れが3本も落ちていて通路を塞いでいました。これらの処理に大汗をかいての昼飯時に、小型の蝶がうろちょろと周りをとんでくれるので、目をとめました。サカハチチョウでした。静かに見ているとなんと私の左手にとまってくれました。そして口吻のストローで手の皮膚の汗を吸ってくれるのです。ひどく熱心なのでこいつは撮影できると確信しました。驚か

せないように立ち上がり車のドアを右手で開けて、リュックの中からカメラを取り出して、右手だけでケースから取り出し、セッティングしてスイッチオンして撮影した映像です。翅がやぶれてくたびれ加減ですが、なんとも愛らしいのです。これまでもヤマキマダラヒカゲ、コミスジ、シータテハなどが手にとまってくれたことがあります。サカハチチョウも汗が好きだとわかりました。

サカハチチョウは小型なので蝶に興味のない方には見えないと思います。食草はエゾイラクサやコアカソとされています。しかしです。この映像は夏型のもので春型はまるで別の蝶としか思われなほど色も模様も違うのです。まぎらわしい蝶でアカマダラというのもいまして、これも春型、夏型ともによいと見ただけでは両種を区別できないでしょう。分布は全国区のようなようです。名前の由来はご覧のとおり黒字に白く八の字が逆さまに見えることからきています。



春型

森ボラ参加の楽しみ方もいろいろありますが、虫の世界もまた楽しいのです。鳥の種が尽きてきましたので、これからは虫を紹介しようと思っています。